

「これはわたしの愛する子」

イザヤ書
マタイによる福音書

第42章1節～4節
第3章13節～17節

説教 岡村 恒牧師

「また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。(17節)ヨルダン川でバプテスマ(洗礼)をお受けになった主イエスが、川から上がった時に天から響いた神の声です。

多くの人々が、ヨルダン川のヨハネから悔い改めのバプテスマを受け、新しく生き始めたいと願いました。ヨハネが、神に背中を向けて歩んでいた人々に、《悔い改めて(方向転換して)》、神に喜ばれる者として生き始めるようにと人々に勧めていたからです。

主イエスがおいでになった時、ヨハネはすぐに、主イエスがいったいどなたかを知り、主イエスがヨハネから洗礼を受けることを止めようとしてしました。主イエス・キリストはこの世界が創造される前から、父なる神と共におられ、一度も、神に背いたことなどないお方なのです。

「しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』(15節)主イエスは、『今』という言葉で、神の救いの時がやがて来る、と言われました。主イエスが十字架の上で、私たちの罪を洗い清めるまで、まだその時が来ていないと言われたのです。

ですから、主イエスがお受けになったバプテスマは、他の人が受けたものとは異なっていました。今日、私たちにお見せになるために、主イエスはあの日水に入られました。そして水の中から「上がった」のです。主イエスのご生涯の大切な場面で、「上がる」とか「起こす」という言葉が出てきます。十字架に上げられ、死人の中から引き起こされ、弟子たちの前で天に上げられました。この日主イエスが水から上がった時、神の御業(みわざ)が起こったのです。

私たちは、ただひたすら神のことだけを考えて歩みたいと願い、悔い改めて洗礼を受けてもなお、繰り返し神に背中を向け、神無しに生きようとしてします。しかし主イエスはこの日、やがて与えられる本当のバプテスマ、神の奇跡の御業をお見せになりました。

主イエスは、「天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。」(16節)のです。神と等しいお方、御子イエス・キリストご自身の霊を聖霊と呼びます。聖霊が主イエスから引き離された時などありま

せんでした。この日、神の御霊はわざわざ、人間に見えるような姿形をとって、主イエスの上に下りました。主イエスご自身もこの出来事をしっかりとご覧になっています。天が開け、神の支配が私たちのこの世界の中に突入してきたのです。神ご自身の力ある業(わざ)が、私たち愚かな人間に直接関わって働きかけて下さるようになることが、はっきりと見せられたのです。

やがて、主イエスが十字架の上で死んで墓に葬られ、陰府(よみ)に下り、三日目に死人の中から引き上げられた後、弟子たちに約束の御霊が注がれました。その時も、聖霊は「炎のような分かれた舌」のような目に見える姿で弟子たちに降りました。後に教会は、聖霊を《鳩》や《炎》のイメージで描くようになります。

一人の罪人が悔い改め、神への信仰を告白して洗礼を受ける時、この日ヨルダン川で起こったこと、聖霊降臨祭の日に弟子たちに起こったことが、自分たちの目の前で起こっているのだと代々の教会は信じ、確認してきました。

誰でも洗礼を受けた者は、約束の賜物として聖霊を受けます。これは神の約束です。あの日、主イエスに降った聖霊は、やがて弟子たちに注がれ、今日、私たちひとりひとりに注がれているのです。そしてあの日、天から響いた声は、今日も、この場所で響いています。あの日人々が耳にした神の宣言を、私たちはこの聖堂で、礼拝のただ中で、繰り返し聞いているのです。

父なる神は、今ここにいる私たちに、はっきりと宣言して下さい。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。(17節)私たちが母の胎の中で創られる前から、神は私たちに目を留め、愛して下さいました。本来、こんな言葉を聞くことなど絶対できない私たちに向かって、ただ主イエス・キリストの命の代償の故に、神は語りかけて下さるのです。

神は、私たちひとりひとりを、高価で貴い存在だと宣言し、愛して下さいます。ただキリストの義をまとうことによって、ふさわしくない者が、神の宣言を聞き、主の食卓の一員と呼ばれます。私たちは主の食卓を囲むたびに、この神の宣言が、確かな救いの約束であることを、目で見、手で触れ、舌で味わうのです。

(記 岡村 恒)